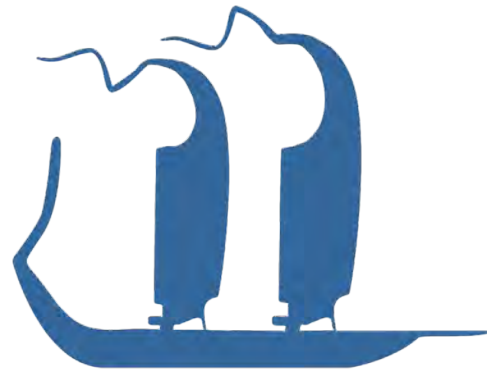


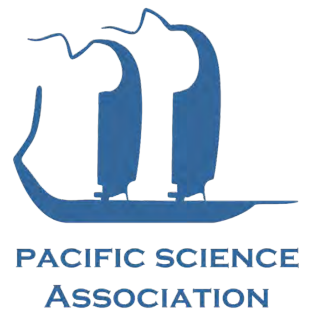
日本学術会議 第25期 農学委員会・食料科学委員会PSA分科会



PACIFIC SCIENCE
ASSOCIATION

- Pacific Science Association (PSA)は、アジア・太平洋地域における科学技術の持続的発展に貢献することを目的とした非政府系学術団体である。
- 気候変動、マイクロプラスチック、生物多様性の消失等、今日顕在化する環境問題は世界的に取り組まなければならない、国連のSDGsをはじめ、大国も小国も連携して問題解決に取り組む必要がある。太平洋の国々と直接的かつ定期的に繋がり、交流、議論し、協働してきた日本において、**本PSA分科会はPSAへの我が国唯一の窓口である。**

PSAの概要



- PSAは1920年に創設された、ICSU（International Council for Science, 国際科学会議）の最も古い参画学術団体のひとつ。
- 事務局は、米国ハワイ州にあるビショップ博物館。
- 現在は、29の国と地域（南太平洋地域は11か国からなっている）が加盟。
- アジア・太平洋地域において、研究者の連携、科学力の強化、ステークホルダーの効果的なコミュニケーション、科学的な活動への島嶼国の積極的な参画と、その結果として「**太平洋学（Science of the Pacific）**」を推進。
- 加盟国には国家規模が小さい熱帯太平洋島嶼国が多数あるため、先端的な特定分野の研究の進歩よりは、広い分野の学術を当該地域の環境と人々の生活の質の向上に役立てることを重視。

PSAの運営体制と活動

- ◆ 定期的な活動として、4年ごとに太平洋学術会議を、また、その中間年（2年目）に太平洋学術中間会議を開催している。
- ◆ 会期は5日間で、平均的な参加国数と参加者数は、約35か国と500名である。

執行理事会

執行理事

会長

副会長

事務局長

財務委員

常務委員（4名）

前会長

前大会長

次大会長

実務担当
常任幹事

科学ワーキング・グループと委員会

- ◆ 海洋酸性化
- ◆ 将来へ向けての人的リソース
- ◆ 地球規模の環境変化
- ◆ 科学コミュニケーションと科学教育
- ◆ サンゴ礁
- ◆ 生物多様性

★ 委員会



PSAの特徴：

- 全学術分野が対象
- 分野の枠を超えて考える、学際的なアプローチを推進
- 地域や世界が直面している複雑な問題への取り組み（海洋酸性化に関するシンポジウムなど）
- 科学界の外に向けたアピールを大会ごとに発出

PSAの動向、なぜアジア・太平洋地域なのか？：

- 地球環境問題の多くは、小規模な島嶼国が多いアジア・太平洋地域でいち早く顕在化（Future Earth への協力）
- 加盟国・非加盟国に限らず、科学者、NPOや若い学生の参加を広く受け入れ（キャパシティ・ビルディング、日本留学の可能性、表彰による若手のエンカレッジ）
- 経済規模の小さい島嶼国に対する学術的支援

日本の貢献と、それによるメリット：

● 畑井メダル (Shinkishi Hatai Medal) の授与：

太平洋の海洋生物学の発展に顕著な貢献があった科学者に対して、故畑井新喜司博士の名を冠した国際的顕彰を行う事業。国際学術団体の活動の一環として我が国が国際賞を授与する例は極めて珍しい。このことにより、PSAにおける日本のプレゼンスは際立っている。

● PSAへの財政・人的支援：

我が国の重要な外交戦略の一つ。国連における我が国のプレゼンス向上への貢献。

● 博物館等の収集標本の加盟国相互利用ネットワーク：

アジア・太平洋地域における、民族、環境、生物の多様性研究の発展への貢献。